

# 湘南学園だより

No.112

行  
発  
湘  
園  
學  
園  
だ  
より

## ここに泉あり

学園長 藤岡 貞彦

に花を咲かせたりしていましたが、どの参加者も笑顔笑顔だったようです。厳しさが増している社会状況にあります、昨日の「祝う会」の参加者をふくめて、新たに成人となった卒業生たちのこれから活躍を心から祈っています。

なんという、あたかくやさしい「贈ることば」でしょう。このブログをかけた先生は、140人の新成人を心から喜び、心から祝い、心から活やくを祈つておられるのです。

ふと、往年の名画、「ここに泉あり」を思い出しました。高崎市民オーケストラの誕生の記録だったと思うのですが、管弦楽団が軌道にのるまでの苦労と喜びが、見るものの心を打ちました。楽団員たちが心をつにして、地元での式を終えてからみんなで集まろうという呼びかけのもと、ここ十年ほど自分達で主催する「成人を祝う会」を行っています。これまで、学園の施設ホールやラウンジ等を使って行つことが多かつたのですが、今年は何と藤沢市のホテルのパーティ会場を借りての実施ということでした。この学年の卒業生数は140人という学年ですが、昨日は約80名もの卒業生が集まつたと聞いています。しかも、その「祝う会」を実施するあたり夏くらいから「実行委員会」を結成して準備をすすめてきたと言いますからとても驚きです。

「祝う会」では、それぞれが近況をいましたが、心温まる式も多かつたようです。昨日は成人の日でした。全国で百七十七万人が成人の仲間入りをしたと報道されています。新成人の皆さん、おめでとうございます。テレビでは各地の成人式会場の様子が報道されていましたが、心温まる式も多かつたよ

うです。

### 祝 成 人

どんなコラスが、どんな苦労のはてに提供されるのか。期待の涙でした。

よくうたいこまれた「コスマス」(M2A)、重く悲しい「十字架の島」(H2B)、そして、"ブナノモリノハガクレニウタゲホガイニギワシヤ"にはじまるシユーマンの名曲「流浪の民」(H1A)にいたつて、涙がとまらなくなりました。このコンクールこそ、学園の泉

私の参加は、今年で六回目になります。年々最前列の審査員席に座つてきました。そして、今年は、今春退職する私にとつてさいごの、特別のコンクールなのです。

校長のあいさつが終わって、最初の「ディオの夜の旅」(H2D)が始まると、はや、もう涙があふれてくるので手紙にはこうかかれていました。

クラスによって進行度は様々ですが、皆それぞれの思いを胸に、気合十分に合唱コンクールにのぞんでおります。

年々レベルが上がつているといわれる当合唱コンクールですが、今回はより完成度の高い合唱を皆様に提供できるかと思います。

合唱コンクール実行委員会、同から審査員へ事前にいただいたお礼の手紙にはこうかかれていました。

たくさんの話題のなかに、五年分の「合唱コンクール」のおもいでばなしがあつたことは、まちがいありません。

成人式から半月後に、「第20回合唱コンクール」が、今年も行われました。その場で、これこそが、「ここに泉あり」の場だ、とおもつたことでした。

湘南学園の明日に栄光あれ！

# 希望ある未来に

湘南学園理事長 小田 拓也

早いもので、昨年始まった今期もあと僅かになりました。期首において一介の給与労働者に過ぎない私が、ことともあろうに私学の理事長を勤めるなど信じ難く、戸惑いを覚えたのはつい昨日のようです。教育行政、教育論について全くの素人の私にとって学校経営に何を抛り所に、臨むのか手探りの感がありました。こうした状況で、何か学校経営の参考になるものを求めて、他校や文献にモデルを搜し求めたものの、本学の形態は極めてレアケースで、参考となるものは極めて稀でした。学校経営に対する私の見方を、この学年を「非営利組織」として捉えました。学校経営における法人の役割とフィールドを見極める上でこの捉えかたをした方が学校現場、法人の役割、棲み分けが明確になると実感したからです。あるマネジメント学者の受け売りであり、私なりの見方ですが、企業は財とサービスを提供、非営利組織は生徒の人生をかえる組織と見立てる上でこの学校の形態の本質を捉えることを試みてきました。

■ 小学校建設＝本学園の強みを發揮する機会

8年間の間に評議員、監事、PTA会長、理事

を勤めさせていただきましたが、負の場面への対処に腐心してきた側面が多分にあり、学園のマイナス面に目が行く傾向は否めませんでした。経営においては反省すべき点です。これまでの事象を総括し、今後の経営に活かさなければならぬのは当然ですが、本学の、長所、美点を再評価し長所、強みとしてゆく目線へ移行することが今後の経営において大変重要なことだと思っています。多的な条件から挙げれば、鵠沼というロケーションです。湘南鵠沼地区は他のエリアの皆さんからは、魅力がある垂涎の地と言つても良いほどの評価を得ていると思います。郊外型の私学として、申し分の無い恵まれた環境にあると思います。こうした条件の中にある本学で、足掛け6年に渡つて検討期間を経てきた小学校の建て替えが本年春に着工を迎えます。経済環境の悪化が社会に深刻な影響を与えてる現状で、敢えてこれに踏み切ったのは“湘南学園の未来”に対する投資が学校価値を高める上で必須だという判断からです。また、小学校の建設を進めに当たり、新たな学校像、教育像を掘り下げることにより、教員皆さんのモチベーションの向上が同時に期待できるからです。湘南学園は、幼稚園、小学校、中高とそれぞれ適用される法令、所轄官庁も異なりますが、共通項は“湘南学園の子供達である”ということです。建設を契機として総合学園としての価値向上について前項で触れましたが、幼稚教育、初等教育、中等教育とそれぞれの分野でのエキスパートである教員の皆さんのが、共通のミッションを確立する機会でもあることを期待致したいと思ひます。昨今の私学経営には、経済環境の悪化

ですが、この度の建設は小学校に対するものであると同時に、学園全体のイメージ高揚に繋がるという総合的な観点で捉えています。6年間の準備期間で、小学校教員の皆さんとのヒアリング、対話によりイメージ、コンセプトを纏める過程で校舎創りとともに、初等教育の在り方についても充分な議論をいたしました。小学校の学校価値向上によって移行することが今後の経営において大変重要なことだと思っています。多的な条件から挙げれば、鵠沼というロケーションです。湘南鵠沼地区は他のエリアの皆さんからは、魅力ある垂涎の地と言つても良いほどの評価を得ていると思います。郊外型の私学として、申し分の無い恵まれた環境にあると思います。こうした条件の中にある本学で、足掛け6年に渡つて検討期間を経てきた小学校の建て替えが本年春に着工を迎えます。経済環境の悪化が社会に深刻な影響を与えてる現状で、敢えてこれに踏み切ったのは“湘南学園の未来”に対する投資が学校価値を高める上で必須だという判断からです。また、小学校の建設を進めに当たり、新たな学校像、教育像を掘り下げることにより、教員皆さんのモチベーションの向上が同時に期待できるからです。湘南学園は、幼稚園、小学校、中高とそれぞれ適用される法令、所轄官庁も異なりますが、共通項は“湘南学園の子供達である”ということです。建設を契機として総合学園としての価値向上について前項で触れましたが、幼稚教育、初等教育、中等教育とそれぞれの分野でのエキスパートである教員の皆さんのが、共通のミッションを確立する機会でもあることを期待致したいと思ひます。昨今の私学経営には、経済環境の悪化

■ 期待されるミッションの共有

幼稚園、小学校、中高とそれぞれ適用される法令、所轄官庁も異なりますが、共通項は“湘南学園の子供達である”ということです。建設を契機として総合学園としての価値向上について前項で触れましたが、幼稚教育、初等教育、中等教育とそれぞれの分野でのエキスパートである教員の皆さんのが、共通のミッションを確立することを期待致したいと思ひます。

## ■ 旅立ちと出会いの季節

毎年、春の訪問が近づくに連れて学園を巣立ちは、新たな旅立ちと新に学校に集うお子さん達がやって来る期待と惜別の季節を迎えます。

私ごとにあります、湘南学園との縁の始まりは小学校の面接でした。希望と少しの不安を抱きながらの帰り道に子供と訪れた湘

南海岸の抜けるような蒼空が今でも焼きついでいます。この学校に集う皆さんとのそれぞれの出会いと旅立ちが希望に満ちたものであることを、心から願いたいと思います。

で逆風の最中にあると言えますがどのようないふか？大学進学に注力してゆくことでどうか？一定以上の偏差値を確保することでじょ

うか？それぞの答えは価値観の尺度にはなり得ますが、絶対解は無いといえます。その答えは、各校の教職員、関係する皆さんとの湘南学園に対するミッションを共有することにある気がしてなりません。学校と言えど、組織で

ある以上、価値観の衝突や対立を内包しているのが現実です。しかしそれが現実としても、子ども達の成長により社会の貢献を実現することができます。様々な思惑を越え相互に関心を持ち続けることで共通のミッションが確立されると考えております。総合学園における、それぞれの各校における相乗効果が期待できるということです。

■ 旅立ちと出会いの季節

毎年、春の訪問が近づくに連れて学園を巣立ちは、新たな旅立ちと新に学校に集うお子さん達がやって来る期待と惜別の季節を迎えます。私ごとにあります、湘南学園との縁の始まりは小学校の面接でした。希望と少しの不安を抱きながらの帰り道に子供と訪れた湘

南海岸の抜けるような蒼空が今でも焼きついでいます。この学校に集う皆さんとのそれぞれの出会いと旅立ちが希望に満ちたものであることを、心から願いたいと思います。

## 二〇〇九年度

### 学校評価について

湘南学園中学校高等学校

学校長 古市 好文

後期期末試験が終了し、春薫る新年度を迎える季節となります。三月六日、高等学校卒業式となりました。三月十日には中学修卒業式及び高校修業式となります。

各分掌による教育運営の計画と実施報告を受けて、以下の通り、二〇〇九年度についての学校評価を簡潔にお示し致します。

### 一、創立七十五周年後と特別教育活動十年について

昨年度は当学園創立七十五周年にあたり、中学校高等学校では今後の学校の発展を期して「学校満足度調査」を実施した。この結果については昨年三月発行の「学園だより」で簡潔な内容で公表している。又、年度生徒の授業アンケートを七月と二月の一度にわたって実施した。今年度も同時期に二度実施し、概ね授業満足度が安定していると考える。

### 二、研修について

二〇〇八年度に国際教育委員会を教員組織内に置いた。従来のカナダセミナーに加えて、二〇〇九年三月に希望者による韓国セミナーを実施した。又、二〇〇八年九月にオーストラリアのメルボルンの独立系私学2校と友好協定を結んだが、その内の二校ノックススクールと折衝が強められ、二〇一〇年度から本格的な交流を開始することになった。今後の国際教育活動の広がりにつなげるステップとなると考へる。

各分掌による教育運営の計画と実施報告を受けて、以下の通り、二〇〇九年度についての学校評価を簡潔にお示し致します。

各分掌による教育運営の計画と実施報告を受けて、以下の通り、二〇〇九年度についての学校評価を簡潔にお示し致します。

今年度は特別教育活動が開始して二十年目である。教員室ではこの教育活動の報告会が定着し、次年度に向けて活動が総括され、引き継ぎがしっかりとできるようになっている。学年ごとに、特活委員の活動に配慮した新しい取り組みも生まれている。又、プログラムではファイルドワークと全体報告の工夫もされている。中学研修旅行では民泊の試みがなされ、新しい生徒達の成長の場が築かれている。高校三年では希望をもつて可能性を拓くためというキャリア教育の側面も強められた。生徒の成長を育む活動として今後も発展していくことを信じている。

### 三、各分掌の活動等について

学習進学では、昨年に引き続き夏季講習で高・高一対象の合宿講習を実施し、校内講習でも工夫がみられた。又、中学二年生と三年生に外部補習を放課後にして一人体制で強化模試も実施した。今年度から中学の補習・講習も盛んに計画され取り組まれた。今後、大学進学においては、又、高校においては朝及び放課後の補習・講習も盛んに計画され取り組まれた。今後、大学進学においては、一定の実績を得るものと思う。

生活指導では、生徒間のトラブル等がなくなつてはいないが、その減少傾向がみられている。特に中学生で顕著である。指導委員会ではトラブルへの対応において研修会を開いたが、今後の指導力の向上にもつなげられておりと考へる。又、担任や学年サイドと保健室との連携も強められてきておりと考へている。

### 四、教職員の研修について

教職員の研修については、各委員会主催の校内研修をはじめ、学習進学の情報分析等多様に実施した。校外研修でもその量が増えている。これらに考慮するとその成果が期待される。しかし、ケース・スタディ的な研修で集団的に研究を深めるという課題が残されている。

教務委員会等では、まず学習指導要領の改訂に伴うカリキュラムの編成での整備と検討が進められた。今後、研修を踏まえた議論により、生徒の成長のために、どのような学校づくりを進めていくのかという模索が必要となってきた。昨年度から図書室に専属の司書が配置されたが、書室に専属の司書が配置されたが、必要となってきた。昨年度から図書室に専属の司書が配置されたが、書室に専属の司書が配置されたが、実に向けての改善が進められた。又、昨年に統いて保健室へのスーパーバイザーによる外部評価が実施され、保健室の充実と生徒等に対するケア態度にむけて明らかに前進がみられた。

その他としては、生徒会主催の学園祭で地域の八自治会の方々の参加を得ており、地域自治会の総会や自治会独自イベントが学校内で開かれていることも含めて、地域に開かれた私学となつていると自覚している。

### 五、生徒会の指導について

生徒会の指導については、学年レベルと生徒会指導委員会の統一的な組織的取り組みが課題になつてきており、教員側の研修も必要であろう。又、合唱コンクール等個々の生徒会行事では、生徒の活動レベルの向上が見られた。

## —中高合唱コンクールを終えて—

**20周年にふさわしい感動と歌声をありがとう！**

～すべてのクラスに拍手喝采を～

生徒会指導主任 緒方 哲也

第20回を迎える記念すべき中高の合唱コンクールが、1月26日(火)に鎌倉芸術館で行われました。当初心配された新型インフルエンザの発症もなく、風邪による欠席の生徒もほとんどないまま、当日を迎えることができました。

後期が始まってすぐに実行委員会が結成され、中学・高校とともに昨年度の副委員長がそれぞれの委員長になりました。全体の運営に関しては、前回実施の経験と反省点を活かす形で、今回の記念すべき20回のコンクールが行われたとも言えるでしょう。今回は中学・高校とともに司会者を置かずして各クラスからのメッセージを会場で披露する形をとりました。また、パンフレットについても、中高ともに各クラスの紹介やクラス全体の集合写真などを載せました。これは、この合唱コンクールを通じて「クラスの絆(きずな)」を築き上げたいという生徒諸君の強い気持ちの現れでもあります。

りました。

今回の合唱コンクールでは、多くの中学生が高校の部を見学し、中2では学年全体の約4割80人の生徒が高校生の部を鑑賞。「高校生の歌を聞いてすごく感動…自分たちも先輩のように歌いたい」との中学生の感想です。また今回は保護者の方も多数多く見学に来られました。特に、今回で最後の行事となる高2では、学年全体で75%を越える150人以上の保護者の方に足を運んでいただきました。中学の部でも、中2では70%に近い約130名の方が来館されました。これは、私どもとしても本当に喜ばしいことです。そして、「今年もレベルが高かった」とは、審査員の先生方の感想です。どこのクラスでもさらに上位のレベルの合唱に挑戦しました。初めて経験した中1の皆さんには「審査があつたので、足がガチガチに…」と、当日の緊張した様子を話してくれました。

そして、どのクラスも短期間の練習では大変でした。「本格的に練習し始めたのは本番2週間前。最初はクラスがバラバラで全然まとまらなかつた。そろえるのが大変だったけど、練習していくうちに、やっとクラスがひとにまとまりた!」「クラスの中でけんかになつて、嫌な気分のまま練習を終えました。家に帰ると『明日頑張ろうね!』というメールがたくさん来て、とても嬉しかった」…友達と励まし合いながら困難を乗り切った生徒諸君の感動あふれる感想です。そして「来年は自分が指揮をやりたい!」「今度は絶対に賞を取るぞ!」と、次回の熱い意気込みも忘れてはいません。そして、「色々と大変だったけど、本当に楽しくて最高の思い出になった」(中学生)…これは、高校生を含めた多くの皆さんとの共通した感想ではないでしょうか。今回の合唱コンクールは、20周年にふさわしい大きな感動と美しい歌声を私たちに与えてくれました。こうした合唱コンクールを創りあげてくれた、すべてのクラスの皆さんと、コンクールを陰で支えてくれた実行委員の皆さんには、大きな拍手を贈りたいと思います。本当にご苦労様でした。

なお、結果は次の通りです。

### 【中学の部】

1年	金賞 E組、銀賞 B組
2年	金賞 B組、銀賞 A組
3年	金賞 A組、銀賞 D組

### 【高校の部】

金賞 高2F組
銀賞 高2A組
銅賞 高2B組

審査員特別賞 高1A組
-------------



六年生総合

六年生の総合を紹介します。総合は、学習は教科と縦横につながり、総合という教科だけで成立するものはありません。特に社会科、理科、体育保健分野の視野からも広く学び、総合を形づくると考えられます。

古代から現在に至るまで代々命が受け継がれ、私たちが今ここにあることとを再確認する学習です。歴史の「つながり」を持つがつている実感を得られるのです。

教室から飛び出し本物の歴史に触れるために向かった京都、奈良の修学旅行。この旅行は飛鳥時代から奈良時代、そして江戸時代の町並みが残る京都を自分の足で歩き肌で感じる学びの場となっています。すでに三十五年以上続いており、今年も六年生にとっては寺社や仏像を鑑賞するにとどまらず、歴史への興味や芸術や人の生き方までも学び、その後の学習への

さて、この一日の旅程を計画するに当たって実は半年前から動きが創られています。五年生の十月には箱根路を自分たちで計画し、行動することや修学旅行一ヶ月前の五月に鎌倉散策を自分たちの手で計画し、行動する流れの中で実行されています。



海に出て前週教室では事前学習に取り組みました。

海のこととをよく知り、安全に入る  
ことを目的としての活動です。波打  
ち際で遊ぶ人は多いようです。しかし、  
毎年のように水際で起ころる事故のこ  
とを子どもたちはあまり身近に受け  
止めていないところもあつたようで  
す。

しかし、レスキュー・ユーティープをつかふた活動やバディで仲間を確認する仕組みなどを習得し、海で活動できる面白さを少しは感じたようです。ボディーサーフィンは何も道具を使わなくとも波に乗れることがわかると何回も挑戦している姿をが見られました。

海での活動は環境を守ることだけではなく海に対する新たな楽しみ方に触れた学習であったと思います。そして、その他にもエコ活動を自分たちの身の丈で理解し、アピールする活動に取り組むことや討論を通して自分の意見をしっかりと伝え、互いに理解しあえる関係づくりに取り組んできました。

修学旅行の一日は自分たちで計画をたて行動します。その足は京都の観光タクシーを利用します。初めての土地である京都について数週間前から資料を集め、10分単位で予定

これまでの受身的な活動計画の上に自分を当てはめることから、更に一步踏み込み自分の手で作り出す活動へ変化を遂げているのです。

助けに行こうと行動してはいけないことなど、あわててしまうと思わずとつてしまいそうな行動が次の事故を生むことなど海の知るとともに自分の心のコントロールの必要性を学んだ時間もありました。

## 三年「海の学習」

林田 英一郎



三年生は、宿泊学習がスタートする学年です。その宿泊地が三浦半島の油壺ということもあって、三年生では「海の学習」に取り組んできました。海にも近く、交歓会のよつたな行事をおこなっている本校では、身近な自然環境として海を感じ取ってもらうことは大切です。ましてや三年生なのでから、単に座学で終わるだけではなく、体験の中から色々なことを学びとてほしいと考えています。

これまでの活動を挙げていくと……

宿泊学習の中での磯観察や水族館の裏側見

学・鶴

沿海岸

での地

曳き網

などの

校外学

習の他

にも、チ

リメン

ジャコの中に混じっている色々な生き物をさがす「チリモン」、色々な海岸の

砂を持ちよってきて、そのちがいを比べとついく活動などを実施してきました。子どもたちは、チリメン・ジャコの中から様々な生き物をよりわけていったり、海岸の砂粒を肉眼で観察した後、あらためて顕微鏡で観察していく中で驚きや発見を重ねてきました。今年に入つてからも、この湘南の地で環境活動に取り組んでいる「エコサファーワーク」に環境活動として次の4点があげられています。



①児童を中心とする「エコスクール委員会」活動への必要な助言、援助を行います。

②本校の環境学習についての助言を行います。

③本校の環境教育への必要な援助を行います。

④児童、保護者、地域への環境教育についての啓蒙活動に協力する。

準備会の構成者として、海洋生物学者として著名な川崎健氏（東北大名誉教授）を始めとする日大、慶應大等の研究者の方々、地域のNPO、環境団体の方々、湘南地域で活躍す

## 子ども達の学びを支える 「エコスクール・サポート委員会」

教頭 斎木 修



「環境教育」を湘南学園小学校の柱の一つにするために、児童を中心とした「エコスクール委員会」が活動を始めました。「エコスクール・サポート委員会（現在は準備会）」は、そうした子ども達の活動を側面から支えることを目標にした、保護者、地域の方々によって構成された組織です。来年度4月より正式に発足します。

委員会の目的として次の4点があげられています。

は、本校保護者の文化的な厚みと共に、これまでの湘南学園小学校の教育活動の中で知り合うことが出来た多様な方々との貴重な繋がりです。

この活動を取り組む中で感じたのは、これまでの湘南学園小学校の教

育活動の中でもう一つ、これからの小学年教育のみならず、これから的小学校を支えてくれる強力な応援団となることでしょう。



## 広がるエコスクールの輪

小学校学習主任 富田 靖子



三学期の始業式において、本校でエコスクールの活動を始めることが、エコスクール委員会児童より全校児童に向けて宣言されました。

エコスクールという言葉をどこかで耳にされた方もいらっしゃるかもしれません。文科省、環境省などが推進するエコスクールとは、環境を考慮した学校施設のことです。

それに対して小学校が取り組み始めたエコスクールとは、世界最大のNGOの「環境教育基金(FEE)」が運営する、一九九四年にデンマークで生まれた子ども向けの環境学習のプログラムを指します。子どもたちが課題決めから調査、計画、実行まで主体的に活動する取り組みを、教師や保護者、地域の方、またFEE事務局がサポートしながら進めています。世界四二万国、一万五千校、六百万人以上の子どもたちが取り組むこのエコスクールが、昨年八月より日本でもスタートしました。本校でも、十二月に五・六年各クラスから委員を募ってエコスクール委員会を設立し、FEE

E日本事務局にエコスクールの取り組みを開始するための申し込みを済ませたのです。

エコスクールの最初の取り組みは、子どもたちによる学校の環境調査でした。

学校の中を見て回ったり、クラスで意見を集めたりして、エコの視点で自分たちの学校環境を見つめ直しました。

\*電気や水、紙の無駄遣いがある。  
\*冷暖房が強すぎる教室がある。  
\*生きものが少ない。  
\*緑が少ない。  
\*ミニ蓮池が汚れている。

など、たくさんの課題が明らかになりました。そして、「エネルギー、水、紙を大切にしよう」「植物や生きものを増やそう」という目標を立て、課題を解決していくための行動計画を立てました。

これまでに六回の委員会を開きましたが、一月十二日にはFEE事務局の方も観察に見え、今後の活動に向けてのアドバイスをいただきました。

これまでに六回の委員会を開きましたが、一月十二日にはFEE事務局の方も観察に見え、今後の活動に向けてのアドバイスをいただきました。



新校舎の建設に向けて、子どもたちから「ソーラーパネルの設置」「屋上緑化」「木の種類を増やしてほしい」などの要望が出され、委員会で要望書を作成し、校長先生にお願いに行きました。全部は無理かもしれないけれど、できるだけ実現できるよう努力しますという返事をもらい、手応えを感じて帰ってきました。

一月末からは三つのグループに分かれ、活動を始めました。ミニ蓮池の掃除をしたり、エコ活動への協力を呼びかけるポスターを作成したり、壁新聞でエコスクールの取り組みを知らせたり、ミニマズを増やそうと落ち葉の堆肥作りに取り組んだり、屋上のビオトープの生きもの調査に取り組んだりと、昼休みを返上して何回も集まり活動を繰り広げています。

授業で学習したことや自分で調べたことを委員会の場で説明したり、クラスでアンケートを集めたりする六年生の積極的な姿を目の当たりにし、五年生もエコについての資料を集めたり、話し合いに進んで参加するようになるなど、日々成長していく子どもたちの姿に目を瞪ります。

エコスクールの輪は、委員会の活動に止まりません。自発的にミニ蓮池の掃除をしていたら藤沢メダカを食べてしまったザリガニを発見したので捕獲して教室で飼育しているというクラスや、三学期の総合学習で環境問題を取り上げ、調べたことをポスターにまとめて知らせようという行動にも広がりを見せています。

## 「お弁当公開保育」

年少組担任 中川 貴義



年少組(三歳児)では、1月17日、

二十八日の一日間、お弁当公開保育を行いました。このお弁当公開保育のねらいは、普段見られない幼稚園での子どもたちの姿、お弁当の支度の様子、食事のマナーや食事中の様子、子どもたちの成長を見てももらうことをねらいに行いました。

内容は保護者の方にもお弁当を持つていただき、子どもたちと一緒にお弁当を食べて、食休み(お弁当を食べ終わった後は折り紙などを静かに過ごす時間を作っています)も一緒に過ごしてもらいます。

このお弁当公開をとても楽しみにしていた子どもたち。「今日、お母さん来る?」「明日来る?」と週間も

前から繰り返し保育者に聞いてくるほど、大好きなお母さんと一緒にお弁当の時間を過ごすこの日を心待ちにしている様子が伺えました。

お弁当公開当日は少し緊張している子もいれば、家の人格好いい所を見せようと張り切っている子、恥ずかしそうにしている子など様々な姿がありました。



入園当初の四月、五月の誕生会では、おやつが配られるみんなでいたままをする前におやつを口に運ぶ姿が何人も見られました。しかし、十ヶ月たった今では、自らお弁当の支度を進める姿や、自分の準備が終わっても、みんなの支度が終わるまで静かに待っている姿が見られます。

また、先生になったかのように家人にお弁当の仕方を教えてあげたり、お弁当を食べながらも友達と楽しそうに会話している姿も見られました。そんな姿からも我が子の大きな成長ぶりを感じ取って頂けたのではないかでしょうか。

お弁当公開後、様々な感想が寄せられました。

・子どもたちがお部屋の中で先生の話を聞き、手洗いを済ませ、お弁当の支度…と子どもたちが普段の生活の流れをよく把握しているんだなと思いました。とても成長しました。

・お弁当の時間が楽しく、子どもの体と心の成長を促すものであるよう、母親として献立作り等、努力したいと思いました。

・様々な素材を工夫している方が多く、また量についても参考になりました。

・食材も「これはお肉」「こつちはにんじん」など、お友達と話している様子も見られ、親としても内容に気を付けて、バランスよく入れなければ感じました。

(感想文の一部を抜粋)

毎日のお弁当作りは、お母さんにとって大変なこともあります。しかし大好きなお母さんが作ってくれ



たお弁当を子どもたちが美味しいぞう!というお母様方の原動力に繋がったことを強く感じました。また、保護者の方と分かち合う事が出来、とても嬉しく思いました。

このお弁当公開を行い、とても印象に残った事は子どもたちと保護者の方々の表情です。子どもがニコニコ笑顔でお弁当を食べている姿を見ていたお母さんの顔も、同じニコニコ笑顔に変わった事。食休みの時間、大好きなお母さんと過ごす嬉しそうな顔。みんなが笑顔になれたお弁当公開保育でした。

## はじめの一歩

幼稚園園長 渡辺 礼子

私が初めて湘南学園幼稚園を訪れ、目にしたのは、松林の中に建つ木造の幼稚園園舎でした。扉は植え込みの部分もありなんとものどかな空気に包まれていました。まず園庭に一步足を踏み入れると数人の子どもが釣りをしている姿が目に飛び込んできました。そこには、畳6枚ほどの池があり、中には30cm位もある白や黒の鯉が15匹ほど泳いでいるのが見えました。

子どもたちは、割り箸にタコ糸を結わえたものを池の中にたらしていました。どの子もじっと水面を見つめ、釣りに没頭している姿は大人顔負けの釣り人でした。私は「えつ 釣りをしていいの」と驚き思わず「餌はなー」と聞くと、一人の子どもが釣り糸を上げて見せてくれました。よく見ると釣糸の先には小さな紙に「えさ」と書かれたものがついていました。

隣の子どもの糸の先には、画用紙の端を破いて赤いクレヨンで塗った、自作の餌がついていました。

別の子が顔を上げて「ぜんぜん釣れないんだよ」と言うと、また水面に目を落とし釣りを続けていました。私は、こんなに真剣に、しかも周りを気にせず自分の遊びに全神経を集中させられるなんて、なんて素敵なものたちなのだろうう、なんて素敵な環境なのだろうと感動したのを覚えています。

園庭を進むと、またまた目が点になりました。

どろんこの大きな水溜りに、家から着てきた服のままの子どもたちが、入れ替わり立ち代り飛び込んでいます。白いドレスはたちまちどろまみれに、顔はどろんこエステをしたようでした。水溜りから上がった子どもの嬉しさ一杯の目と歯の白かったこと。「こんなこと許されるの」と、私は先生の姿を探しました。どろんこの水溜りの隣で、砂山を作っている子どもたちの中に、先生を見つけました。その先生は、砂山で遊ぶ子どもたちと話しながら、飛び込んでいました。

でいる子どもたちを、にこにこ見ていました。見回すと園庭には数人の先生がおりましたが、どちらも飛び込みを制する先生は誰一人いません。ということは、この幼稚園の日常の姿なのだと理解しました。私は驚くと同時に、私の求めていた遊びの理想の姿に出会えたことで、学園幼稚園への期待感はどんどん膨らんでいきました。

就職が決まってからも、私の驚きは続きました。その一つは、教員会議です。会議の中で「私も同じ意見です」と答えると「どう同じなの!同じでも自分の言葉で言ってください」と言われました。また、自分の意見を言うと、「それは、子どもたちにとつて、どんな意味があるの」「子どもたちに何を気付かせたいの、何を学ばせたいの」と、とことん追求されるので、ビクビクしていました。また準備不足の為下を向いていると

「あなた、考えている」と鋭い言葉があびせられます。頭の中で意見をまとめていると「何にも発言しないのは無責任ですよ」とたたみかけられ、あたふたするばかりでした。ある時は、ふとくされ

るのよ」とご注意を受けました。私は「プロってなんだ」と何日も考え続けたのを覚えています。喧々がくがくの教員会議でも、終じなの!同じでも自分の言葉で言つてください」と言わされました。

また、自分の意見を言うと、「それは、子どもたちにとつて、どんな意味があるの」「子どもたちに何を気付かせたいの、何を学ばせたいの」と、とことん追求されるので、ビクビクしていました。また準備不足の為下を向いていると

「あなた、考えている」と鋭い言葉があびせられます。頭の中で意見をまとめていると「何にも発言しないのは無責任ですよ」とたたみかけられ、あたふたするばかりでした。ある時は、ふとくされ



私にとつての幼稚園教育の「はじめの一歩」は、ここにあつたよう

に思います。

## 【小学校校舎建設業者決まる】

3月から着工する小学校校舎建設工事の請負業者が決まりました。工事請負業者の選定に当つては、ゼネコン・準ゼネコン8社に入札を呼びかけ、工事仕様書を提示するとともに現地説明会を実施して、提出していただいた見積書（見積金額）及び技術提案書を基に上位3社を選出し、それぞれの見積内容の精査のため、設計を担当した株式会社日本設計をお願いしました。その後業者からのヒヤリングを受け、建設委員会での議論を経て、2月18日の理事会にて総合的な判断の結果、清水建設株式会社に決定いたしました。また、(株)日本設計が工事期間中常駐し、工事の監理にあたります。

工事は、大きくⅠ期工事（12ヶ月）とⅡ期工事（13ヶ月）に分かれます。その概要として、Ⅰ期工事は教室や図書室、教員室、保健室等を備えた小学校の中心的建物の新築工事で、この工事と並行して現在の西校舎の改築が8月の夏

休みを中心に行われます。Ⅱ期工事は、現在の東校舎及び小ホールの解体を行った後、プールを屋上に備えた体育館を主体とした建物に生まれ変わります。最終的に、現在使用中のプール解体を含んだ外構工事を行い小学校校舎建設工事の完了となります。

I期工事分の新校舎の使用開始予定は、1年後の2011年4月から、II期工事分の体育館等は2012年9月からとなります。

建設完了までに卒業してしまう児童は残念でしょうが、諸君が設計に当たつて要望したことは形となって延々と後輩に受け継がれます。

新品ピカピカの校舎で学ぶことができる児童は完成が待ち遠しいと思いますが、新しい校舎を楽しみにしばらく辛抱してください。

工事期間中は、施工業者を中心とに、児童・園児の登下校や戸外での授業等の際には特に安全確保に留意していただきます。また、車両の運行経路となる中高グランドの一部使用もあり、これに関わる安全も十分に確保して参りますの

で、皆様のご協力も宜しくお願ひいたします。

## 【絵画の寄贈を受けました】

昨年12月に、湘南学園小学校前校長小山良昭氏より、日本を代表する世界的影絵作家 藤城清治伯の作品「あじさいと少年」「夜桜」二点の贈呈がありました。

両作品とも額を含め縦・横とも1メートル超の大型の力作であり、美術鑑賞教育等に有効活用を図りたいと思います。

現在、展示場所を検討しているが、新築の小学校に展示したいと考えております。是非、ご期待下さい。

## 【理事会報告】

### 始業式・入学式の日程

センターエリア3階中会議室  
第9回定期理事会 12月4日  
第10回定期理事会 1月9日

第7回臨時理事会 1月15日

#### 〔主な議題〕

- ・湘南学園倫理委員会の発足について
- ・平成22年度重要事業予算について

- ・中学校及び高等学校教育課程の変更について
- ・オーストラリアセミナー旅行取扱業者について
- ・2011～2013年度用広報ツール制作業者選定について

## 【評議員会報告】

センターエリア3階大会議室  
第4回評議員会 1月9日

#### 〔主な議題〕

- ・平成21年度補正予算について
- ・小学校校舎建設事業の進捗状況について

- ・五号保護者評議員の再任信任投票結果について
- ・平成22年度重要事業予算について

